



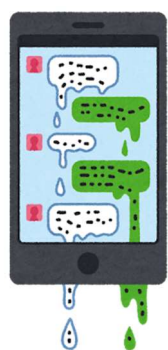
知らないうちに加害者にならないように

校長 笠原道宏

一昔前は、携帯電話・スマートフォンは中学生になってから…という考えが強くあり、小学生の所持率や使用率はそれほど高くはありませんでした。しかし、全国の小学校でタブレットが子どもたちに一人一台配当され、社会の情勢も大きく変わりました。今では、子どもにはできるだけ触れさせないというスタンスから、どう使用させるか、どう向き合わせるかを考える時代になってきているように感じます。

こども家庭庁がR6 3月に公表した調査によると、インターネット使用上のトラブルは、「ネットにのめりこんで勉強に集中できない」「迷惑メッセージやメールが送られてくる」といった内容が主だったものです。子どもがネットから被害を受けないよう、私たち大人が適切に管理する必要があります。各ご家庭でも対応されていることと思います。

一方で少し心配しているのは、「悪口や嫌がらせのメッセージやメールを送ったり書き込みをしたりする」といった、加害者側になるケースです。そんなメッセージを送ったことはないし、書き込みもしたことがないという子どもがほとんどでしょう。



しかし、悪口や誹謗中傷は相手の分からないところで起こり始めることが多いです。LINEなどに代表されるメッセージアプリは、秘匿性が高く、多くの人が使う連絡手段であると思いますが、こうしたアプリ内に、悪気なく書き込んだ批判的な内容が流出するのはよくあることであり、そうなれば自分の意図とは関係なく、加害者側に立つこともあります。

自分からは絶対に流出しない…と言ってみても、送信した相手から漏れ出ることを完璧に防ぐことはできません。またグループを組んで複数の人へ送った場合、それぞれたくさんいる受け取り側が、どのようにその情報を扱っているかなど全く分かりません。

ご家庭で大人と子どもがスマートフォンを共有していて、お互いの通信履歴を見ることが可能な家庭もあります。また、子から親へ、時には親の会話内容を子へ報告したり見せ合ったりするケースもあり、子どもたちの中で保護者間の情報が拡散してることやその逆のケースもあり、時々耳にします。

こうなると、絶対に秘密が守られることなど非常に難しく、書き込みを漏らさないようにするより、そもそも誹謗中傷をしない、批判を書き込まないことがいかに重要かが分かります。学校では、子どもへの指導ももちろん継続していきますが、我々大人のスタンスも今一度見つめなおし、子ども自身が、そして自分が加害者とならないよう過ごすことが重要と考えています。